

8/9～9/11 日、日本中の無肥料栽培のお豆を御愛好されている方々45 名が、私と秀さん（伊藤秀幸さん）の全面積無肥料栽培実施されている畑の見学ならびに体験実習の為、訪れてくださいました。



秋場さんご夫妻

8/31～9/6 伊勢丹新宿本店大北海道展（物産展）において 40 万部発行された 8 面チラシの第一面で無肥料豆をご紹介頂き、メインステージで多くの人々に、ご説明申しあげさせて頂いた事と合わせて、日本の北の隅での営みがサン・スマイルさん、菓房はら山さん、楽天堂さん達、東京や京都の隅での日々の御努力の結びによって、市民権を持たせて頂けるところまで認知されかかっているという事は、日本国民の真の健康志向にとって、将に一隅を照らす画期的出来事だったと思います。

父の代から 55 年、私共夫婦にとっても来年は 30 年の節目となる無肥料自然農法。決して裕福でない農家が先行投資をして、様々な試行錯誤をしながら、経営を成り立たす為、ガムシヤラに走り続けてきた年月の営みは成功と失敗の博覧会状態でした。

今、その過程を節目節目で整理発表させて頂く事は未来に向かって現在進行形の最前線にいる私共の重要な責務と思い、下手な文章を時折出させて頂いております。

一年一作しかない水稻畑作北限地帯での営みも 30 年積み重ねてまいりますと、未来に向かってあるべき方程式のようなものが、輪郭を現してまいります。



自家採種 35 年黒大豆

ほぼ無肥料無農薬で 30 年～55 年あり続けて、良悪の両面の証しがでておりますが、少なくとも良い証しの事例からは、この地球の空間土中こそが、人間の生命を真に健康たらしめる作物を生成化育させる無限のエネルギーの宝庫であるのではないかという事言いきらざるをえません。

特に詳しいメカニズムは科学的にもわかりませんが、土中バクテリアによって、空間土中の様々な要素を取り込む為、豆類や時には 2 年越しで育ったマメ科益草の無から有、自然発生する根粒菌の働きは、私にとって、ここにきてより一層重要視しなければならぬ事実です。

世間で言う養分枯渇、収奪農業の一面は、片寄った作付けローテーションの場合、無肥料、無投入の世界では 30 年の経験上失敗例としてあるのは事実です。

この5年、この農法の起死回生の作物として、自家採種35年の光黒大豆と、世間では消えてしまっている幻の原種銀手亡を、土地貸与して下さった秀さん、販売、紹介して下さったサン・スマイルさんの車の両輪により、大々的に世間に紹介させて頂いた結果としてこの九月の一連のイベントとして成就ならせて頂きました。

無から有の根粒菌を生み出す豆類が輪作体系のもう一方の柱となっていた事が、負債返還も徐々にすすみ、火山灰むき出しの構造改善地等では思い切って、マメ科益草を単年度だけではなく、地下茎で越冬させて、もう一年繁茂させる事が、何年分も地力増進してくる事実を毎年圃場の1/5位の面積に導入する事によって、未来への確かな展望を持たらせてくれました。



無肥料栽培体験ツアー

5年前までの過去25年、このような事実は予想はしておりましたが、余裕ができて、実際に耕作に移すことができ、その偉大な結果をまのあたりにした時、倒産せずに今、営農続けられている事、そして大自然と協力して、頂いた皆様に心からの感謝の念を申し上げたい次第です。

次に両親の強固な信念から、私の出生の原点である主食の米を50年間無肥料で作り続けた、転換畑の黒大豆と同じく昭和46年の水田の休耕政策開始により、転換畑となり、石ころと、水はけのよくなく、機械導入しにくい土地のため、小麦とクローバーの共生と、大豆、黒大豆の作付けを交互にし続けた畑の黒大豆の見事な生育、ほぼ一般化学農法並の収量、本当に35年~55年無肥料無投入なのですかと、全国民に問いかけてみたい育成でございます。

しかし一方で石がなく、水はけ良く、機械収穫もし易いため、この30年、5年に1回の小麦クローバーの共生だけで、豆類の需要が希少であった為、やむをえず、じゃがいも、人参を栽培し続けた30年前の一等地が（皆様が実習のため足を踏み入れて頂いたあの土地において）世間の1/5くらいのジャガイモ、大正金時の収量しかございません。

日本人の健康増進の為には必須条件である無施肥無農薬の穀物と豆類主体の食生活となって行く事に反比例して、根菜類は3年に1回くらいのローテーションとなる事が、豆類のお客様が確実に支持して下さる事により、可能となった現在、はっきりとした土壌改善の見通しが見えてきた事とあいまって、負の遺産をも未来の実施者にしっかりとお伝えできるならば、決して暗い現実ではございません。

様々な観点から、真心より皆様に感謝申し上げますと同時に、輝ける未来を目指して、日本国民、しいては世界中の人の真の健康増進、そして大規模医療費縮小可能による、平和的財政再建に向けての、食と農の世直し一揆の旗をあえてかかげさせて頂きたい所存です。

今後とも一層のご協力を祈念致しております。